

開催地名	広島県 広島市安芸区
開催日時	令和7年2月15日(土)10:00~11:45
開催場所	安芸区民文化センター
語り部	菊池 健一(宮城県仙台市)
参加者	自主防災会連合会 80名
開催経緯	本市においては、人的被害を含む大規模災害が頻発しており、安芸区においても平成30年7月豪雨災害にて甚大な被害を受けた。 しかし、5年以上が経過し、地域住民の防災意識も軽薄化が見られる中、改めて災害時における地域自主防災組織等が担うべき役割や、日ごろから地域が行う自主防災活動について、他自治体の取組等を踏まえ広く周知してほしいとの声があり開催した。
内容	<p>(1) はじめに 講演者は、東日本大震災の経験をもとに、避難所運営や防災対策についての知見を広めるために広島へ来訪した。この講演では、実際の震災経験を通じて学んだ避難所の現状や、リーダーの役割、地域防災の課題についてお話する。</p> <p>(2) 講義内容</p> <p>1. 現場判断の重要性 災害が発生した際には、迅速な判断と的確な指示が求められる。避難所のリーダーとなる人は、即座に状況を把握し、適切な対応をする必要がある。しかし、日頃から訓練をしていなければ、実際の現場での的確な行動を取ることは難しい。そのため、防災訓練を定期的を実施し、自主防災組織を整備することが重要である。どんな小さな訓練でも、災害時に活かせる知識や経験となるため、地域全体で防災意識を高めていくことが求められる。</p> <p>2. 過去の大地震とその教訓 1978年に発生した宮城県沖地震では、ブロック塀が倒壊し、18人が亡くなる被害が発生した。この災害をきっかけに、建築基準法が改正され、ブロック塀の安全基準が厳格化された。2003年には宮城県北部地震が発生し、震度6強の揺れが1日に3回も続いた。さらに2011年には東日本大震災が発生し、甚大な被害をもたらした。このように、大規模な地震は繰り返し発生しており、その都度、新たな教訓が得られている。過去の震災の記録を学び、それを防災対策に活かすことが大切である。</p> <p>3. 東日本大震災の映像と津波の恐ろしさ 講演では、実際に撮影された震災時の映像を紹介した。震度6強の揺れが4分間続く様子が記録されており、その激しさを目の当たりにすることができる。また、津波の被害は沿岸部だけにとどまらず、川を遡上し、内陸17kmにある陸前高田市でも甚大な影響を及ぼした。津波の力は非常に強く、巨大なテトラポットを転がすほどの威力があり、防波堤も簡単に崩壊してしまう。このため、津波が発生した際には、防波堤の高さに頼るのではなく、迅速に高台へ避難することが命を守る鍵となる。</p> <p>4. 避難所でのリーダーの姿勢 震災直後、多くの住民が避難を始めたが、中には避難を拒む人もいた。講演者は、一人暮らしの高齢女性を避難所へ連れて行こうとしたが、彼女は家に残ることを選び、避難を拒んだ。さらに、避難を手助けしようとした住民に対して、家の貴重品を探すよう指示していた。しかし、そうしているうちに津波が迫ってくる可能性があったため、強引に避難を促した。結果として、この女性は命を守ることができ、後日感謝の言葉とともに大根を持って訪れたという。この経験からも分かるように、避難所のリーダーは時に強い意志を持ち、人命を最優先に行動しなければならない。</p> <p>5. 避難所の実態と課題 避難所では、生活環境が大きく変わり、多くの課題が生じる。まず、仮設トイレは常に混雑し、衛生環境が悪化しやすい。また、ペットを連れている人や持病を抱えている人の対応も問題とな</p>

る。寝るスペースは狭く、プライバシーが確保されないため、いびきや子供の泣き声が気になり、ストレスを感じる人も多い。さらに、食料を持っている人が周囲の目を気にして隠れて食事をするなど、精神的な負担も大きい。

避難所の運営には、女性の視点が不可欠である。現在は、行政が防災組織の役員を決める際に、必ず女性を含めるよう指導している。これは、避難所での生活が男性だけでは把握しきれない問題を多く抱えているためである。避難所運営に女性が関わることで、プライバシーや衛生面の課題をより適切に対応できるようになる。

#### 6. まとめ

東日本大震災の経験から学ぶべきことは多い。まず、行政、町内会、民生委員との連携を強化することが重要である。避難訓練も、決まった時間を実施するだけでなく、夜間や悪天候の状況を想定した訓練を行うべきである。また、避難所運営の訓練も重要であり、実際に避難所の設営や運営をシミュレーションすることで、リーダーとしての役割を担う人材を育成する必要がある。

地域の防災力を高めるためには、普段からの人間関係の構築も欠かせない。防災をきっかけに町内会の活動に参加し、顔の見える関係を築くことで、いざという時に助け合える環境を整えることができる。最も大切なのは、自助・共助の精神を持つこと。まず自分自身が助かる行動をとることが、結果として他者を助けることにつながる。日頃の備えと訓練が、生死を分ける重要な要素となることを忘れてはならない。

この講演を通じて、「防災は自分の命を守るためのもの」であり、「地域全体の安全を支える鍵」であることを再認識し、今後の防災活動に活かしてほしい。



開催地より

迅速な判断、指示は日頃の訓練無しでは到底できないという事を痛感したとともに、映像やスライドにてご説明いただくことでより身近に災害の恐ろしさを改めて理解できた講演であった。